

役員室だより

2012.8 Vol.49

学内措置による教育研究組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による教育研究組織の整備として、7月の役員会で次の事項が承認されました。

- 医学部附属病院「未来医療開発部」の設置（平成24年8月1日）
- 医学部附属病院中央診療施設「てんかんセンター」の設置（平成24年8月1日）

大学留保ポストの活用による若手教員・女性教員等の支援

平成23年3月の役員会で承認された大学留保ポストを活用した若手教員・女性教員等の支援について、7月5日に各部局長あて照会を行いました。

【支援内容】

- ①特に優秀な若手教員の教授昇任の支援について
 - ・本学の特に優秀な若手教員を任期なしの教授に昇任させる場合に、昇任前のポストとの差額分の大学留保人件費を配分する。
 - ・支援する人数は、当面年間3名程度とする。
- ②学外からの教授招聘に係る大学留保ポストの活用について
 - ・学外から本学の将来を担う人材を任期なしの教授に招聘する場合に、大学留保ポストを配分する。
 - ・支援するポスト数は、当面年間1～2程度とする。

③女性教員の採用・昇任（教授・准教授）に係る大学留保ポストの活用について

- ・女性の教授又は准教授を採用する場合に、大学留保ポストを配分する。また、女性教員を教授又は准教授に昇任させる場合に、昇任前のポストとの差額分の大学留保人件費を配分する。
- ・支援する人数は、採用及び昇任について、当面年間各1名程度とする。

【支援期間】

原則、平成25年4月1日から最長3年間

【今後のスケジュール】

10月31日（水） 各部局からの申請書提出期限
11月～12月 第1次審査及び第2次審査
12月末 配分部局を決定

大阪大学における女性教員の比率と採用比率

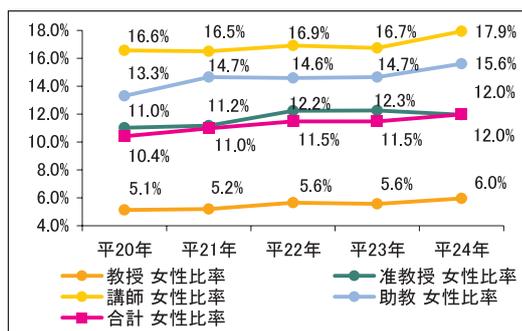
性別を問わず有能な人材がその能力を十分発揮でき活躍できるようにすることは、男女共同参画の根本的な条件であり、大阪大学における教育・研究の充実や大学全体の活性化にとって重要な課題となっています。

本学における女性教員の人数と比率は、グラフのとおり着実に伸びてきておりますが、平成24年5月1日現在における本学の女性教員の人数は374人で、全体に占める割合は12%となっております。国立大学協会は、女性教員比率を20%以上に引き上げることを目指すと目標を掲げており、これに比べてまだまだ低い数字となっています。

また、本学の女性教員採用比率について、本年4月に策定されました大阪大学男女共同参画推進基本計画（計画実

施期間：平成24年度から27年度）【以下「基本計画」】においては、「女性教員の採用比率について、基本計画期間中に採用比率20%を達成するよう努める」と数値目標を掲げております。ここ数年の女性教員採用比率を見ますと、表のとおり10%台において上下を繰り返している状況であり、女性教員の増加のためには、採用比率を一層高める必要があります。

本学においては、さらなる女性教員の増加を目指し、基本計画に基づく各種施策を通じて、目標の達成に向けて継続して取り組んでまいりたいと思いますので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



【グラフ】 本学の年度別職名別女性教員比率 (平成20～24年度)

年度	教授			准教授			講師			助教			合計		
	男	女	女性比率	男	女	女性比率	男	女	女性比率	男	女	女性比率	男	女	女性比率
平成20年度	831	45	5.1%	695	86	11.0%	151	30	16.6%	906	139	13.3%	2583	300	10.4%
平成21年度	838	46	5.2%	731	92	11.2%	157	31	16.5%	903	155	14.7%	2629	324	11.0%
平成22年度	835	50	5.6%	710	99	12.2%	172	35	16.9%	931	159	14.6%	2648	343	11.5%
平成23年度	864	51	5.6%	744	104	12.3%	179	36	16.7%	967	166	14.7%	2754	357	11.5%
平成24年度	851	54	6.0%	743	101	12.0%	174	38	17.9%	978	181	15.6%	2746	374	12.0%

【表1】 本学における教員の年度別職名別男女在職状況 (平成20～24年度)

【表2】 本学の職種別採用者数及び女性教員採用比率 (平成18～23年度)

年度	教授			准教授			講師			助教			プロジェクト雇用			合計	女性教員採用比率
	男	女	女性採用比率	男	女	女性採用比率	男	女	女性採用比率	男	女	女性採用比率	男	女	女性採用比率		
平成18年度	20	0	0.0%	22	4	15.4%	11	0	0.0%	102	29	22.1%	86	12	12.2%	286	15.7%
平成19年度	20	3	13.0%	29	2	6.5%	10	3	23.1%	112	22	16.4%	123	17	12.1%	341	13.8%
平成20年度	29	1	3.3%	17	6	26.1%	9	0	0.0%	96	20	17.2%	111	33	22.9%	322	18.6%
平成21年度	21	2	8.7%	26	3	10.3%	7	5	41.7%	104	12	10.3%	95	26	21.5%	301	15.9%
平成22年度	14	0	0.0%	23	3	11.5%	10	3	23.1%	96	19	16.5%	117	32	21.5%	317	18.0%
平成23年度	15	1	6.3%	18	3	14.3%	14	3	17.6%	80	15	15.8%	114	23	16.8%	286	15.7%

平成23年度業務実績報告書

第2期中期目標期間の2年目である平成23年度の年度計画に係る業務実績報告書について、6月末に文部科学省国立大学法人評価委員会に提出し、8月23日に同委員会評価チームによるヒアリングが実施されます。

今後、評価結果については、10月下旬に公表予定となっています。

なお、同報告書については、公式ウェブページで公表しています (http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/gyoumu_jisseki.html)。

また、同報告書における業務運営等に関する自己評価は、次のとおりです。

項目	年度計画数	進捗状況(自己評価)				
		Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	
I(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標	15	0	15	0	0	
1 組織運営の改善に関する目標	年度計画：17-1-1～18-3-1	12	0	12	0	0
2 事務等の効率化・合理化に関する目標	年度計画：19-1-1～19-2-2	3	0	3	0	0
I(2) 財務内容の改善に関する目標	9	3	6	0	0	
1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標	年度計画：20-1-1～20-2-1	3	2	1	0	0
2 経費の抑制に関する目標	年度計画：21-1-1～22-1-3	4	1	3	0	0
3 資金の運用管理の改善に関する目標	年度計画：23-1-1～23-2-1	2	0	2	0	0
I(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	4	0	4	0	0	
1 自己点検・評価に関する目標	年度計画：24-1-1～24-2-1	2	0	2	0	0
2 広報に関する目標	年度計画：25-1-1～25-1-2	2	0	2	0	0
I(4) その他業務運営に関する重要目標	20	3	17	0	0	
1 キャンパス整備に関する目標	年度計画：26-1-1～26-4-2	7	3	4	0	0
2 リスク管理に関する目標	年度計画：27-1-1～27-4-2	7	0	7	0	0
3 法令遵守に関する目標	年度計画：28-1-1～28-2-1	3	0	3	0	0
4 情報基盤の整備・活用に関する目標	年度計画：29-1-1～29-2-2	3	0	3	0	0
合計	48	6	42	0	0	
【自己評価】Ⅳ 年度計画を上回って実施している	Ⅲ 年度計画を十分に実施している					
Ⅱ 年度計画を十分に実施できていない	Ⅰ 年度計画を実施していない					

平成25年度概算要求事項

平成25年度新規概算要求については、教育研究活動のさらなる充実・発展のための特別経費等を、7月4日に文部科学省に提出いたしました。

特別経費「プロジェクト分」としては、継続課題19件、新規課題7件を要求いたしました。なお、平成21年度以前に採択された事業のうち、全学の教育研究の改善・改革に資する取組として、2件の一般経費組替希望調書を併せて提出いたしました。

また、特別経費「全国共同利用・共同実施分」及び「教育関係共同実施分」については、平成24年度に引き続き、文部科学省が認定する共同利用・共同研究拠点や教育関係共同利用拠点における各種プロジェクト等を支援する経費を、「基盤的設備等整備」については、各法人が策定する「設備マスタープラン」に基づき、基盤的設備の計画的整備等を支援する経費として要求しています。

要求事項の一覧は次のとおりです。

平成25年度概算要求事項（大阪大学→文部科学省）

部 局 名	事 項 名	備 考
【特別経費】		
○プロジェクト分 (事項名称における太斜字は継続分を示す。)		
①国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実		
グローバルコラボレーションセンター	国際協力・共生社会のための実践的教育改革事業—グローバルコラボレーションセンター—(9-7)	一般経費組替申請
基礎工学研究科	量子機能融合による未来型材料創出事業—スピントロニクス、オプトロニクス、モレクロニクス、クオントロニクスの融合による未来型機能材料創出事業—(5-5)	
歯学研究科・歯学部附属病院	「口の難病」から挑むライフ・イノベーション(6-3)	
環境イノベーションデザインセンター	想創技術社会実現のための「環境イノベーションデザイン」教育研究拠点形成事業(4-2)	
生命機能研究科	生命動態イメージングによる最先端生命科学の推進—生命をシステム科学する—(5-2)	
全学教育推進機構	教育学習支援機能の組織化による教育の高度化(6-1)	新規
太陽エネルギー化学研究センター	高度構造制御化学プロセス技術に基づいた太陽電池の戦略的研究開発(5-1)	新規
サイバーメディアセンター	デジタル化による外国語教育の効率化—大学間連携による教材コンテンツの標準化—(5-1)	新規
②高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実		
コミュニケーションデザインセンター	コミュニケーションデザイン教育事業の推進—コミュニケーションデザインセンター—(11-9)	一般経費組替申請
学際融合教育研究センター	学際融合教育事業の推進—学際融合教育研究センターの構築—(4-4)	
知的財産センター	総合的知的財産教育事業の推進—知財センター(iPrism)の設置—(6-4)	
薬学研究科	先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発(6-4)	
情報科学研究科 金融・保険教育研究センター	ソフトウェアイノベーション先導のための研究教育プログラムの開発(4-3)	
③大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実		
産業科学研究所	附置研究所間アライアンスによるナノとマクロをつなぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト(6-4)	
接合科学研究所	特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト(6-4)	
蛋白質研究所	生命分子素子から生命システムの全体像を解き明かす多次元国際研究(6-4)	
レーザーエネルギー学研究センター	レーザー相対論核科学の開拓(6-4)	
核物理研究センター	サブアトム科学推進事業(4-4)	
超高圧電子顕微鏡センター	超高圧電子顕微鏡連携ステーション(第Ⅱ期)(6-4)	
医学系研究科(保健学専攻)	高齢双生児レジストリーに基づく双生児研究基盤の構築—心豊かで健やかな超長寿社会を目指して—(4-3)	
接合科学研究所	広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—カップリング・インターンシップによる実践型グローバル人材育成—(5-1)	新規
ナノサイエンスデザイン教育研究センター	社会に開かれたものづくり理工学の国際人材育成モデル事業—国際的教育品質を保证するナノデザイン教育の実施—(5-1)	新規
基礎工学研究科	グローバルデザインテクノロジー人材育成のためのエンジニアリングサイエンス教育研究国際化推進事業(5-1)	新規
④産学連携機能の充実		
臨床医学融合研究教育センター	医・工・情報連携によるハイブリッド医工学産学連携拠点整備事業—医情報連携センター構築にむけて—(4-3)	
薬学研究科	創薬プロセスの架け橋となるiPS細胞基盤技術構築プロジェクト(5-1)	新規
⑤設備サポートセンター整備		
科学教育機器リノベーションセンター	設備サポートセンター整備経費(3-3)	
○全国共同利用・共同実施分		
産業科学研究所	物質・デバイス領域共同研究拠点によるネットワーク型共同研究事業(6-4)	
社会経済研究所	行動経済学公募共同研究プロジェクト(6-4)	
微生物病研究所	微生物病共同研究拠点事業(6-4)	
接合科学研究所	接合科学共同利用・共同研究拠点事業(6-4)	
蛋白質研究所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点事業(6-4)	
核物理研究センター	サブアトム科学共同研究拠点事業(6-4)	
レーザーエネルギー学研究センター	超高強度レーザーが拓く高エネルギー密度科学の戦略的研究拠点事業(6-4)	
○教育関係共同実施分		
日本語日本文化教育センター	日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業(6-3)	

○基盤的設備等整備		
附属図書館	学術情報資料の全学共同利用推進事業（自動書庫導入）	
理学研究科	フーリエ変換質量分析システム	
理学研究科	高速原子間力顕微鏡	
理学研究科	超高周波電子スピン共鳴（ESR）年代測定装置	
理学研究科	固体・液体NMRシステム	
歯学研究科・歯学部附属病院	マクロ・ミクロイメージング解析システム	
薬学研究科	質量分析装置	
基礎工学研究科	高分解能角度分解光電子分光システム	
微生物病研究所	感染動物実験施設B棟空調システム	
産業科学研究所	高度ユビキタスセンシングネットワーク開発設備	
産業科学研究所	強力超短時間パルス放射線発生装置I	
蛋白質研究所	無染色細胞・組織三次元イメージング装置	
蛋白質研究所	生体超分子構造解析装置	
接合科学研究科	走査型電子顕微鏡（3次元EBSD解析システム）	
核物理研究センター	サイクロトロンカスケード装置	
核物理研究センター	陽子・重陽子偏極標的用冷凍システム	
レーザーエネルギー学研究センター	レーザー駆動高強度テラヘルツ波分析装置	
レーザーエネルギー学研究センター	激光エクサレーザー装置	
レーザーエネルギー学研究センター	激光XII号システム用コンデンサー	
レーザーエネルギー学研究センター	ターゲット製造装置	
超高圧電子顕微鏡センター	300万ボルト超高圧電子顕微鏡	
医学部附属病院	滅菌医療材料保管搬送システム	
医学部附属病院	滅菌カート洗浄機	
歯学部附属病院	オーラルヘルスユニット（57台）	

【病院特別医療機械設備（長期借入金対象）】		
医学部附属病院	手術支援システム	

【施設整備事業】		
①国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実		
医学系研究科（医学科）	（医）動物実験施設	
薬学研究科	（吹田）薬学1号館改修	重点
情報科学研究科	（吹田）情報系総合研究棟	重点
微生物病研究所	（吹田）感染動物実験施設	
産業科学研究所	（吹田）医療応用ナノデバイス総合研究棟	
社会経済研究所	（吹田）社研A棟改修	重点
核物理研究センター	（吹田）核物理研本館改修	重点
サイバーメディアセンター	（吹田）サイバーメディアセンターITコア棟・本館改修	重点
②国際化の推進機能の充実		
文学研究科	（豊中）文美学棟改修	重点
人間科学研究科	（吹田）大阪大学国際プラザ棟	
豊中職業地区	（豊中）文理融合型総合研究拠点施設（Ⅱ期）	重点
③高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実		
医学系研究科（保健学科）	（医保）健康長寿総合研究棟	重点
④大学等の特性を生かした多様な教育研究機能の充実		
理学研究科	（理）理学E棟改修	
歯学研究科	（吹田）歯学部本館改修	重点
工学研究科	（吹田）研究棟改修（工学部）施設整備等事業（PFI事業13-8）	継続、PFI事業
接合科学研究科	（吹田）接合研実験研究棟改修	
ラジオアイソトープ総合センター	（豊中）RI総合センター実習棟・分館改修	
本部事務機構	（豊中）学生交流棟施設整備事業（PFI事業13-9）	継続、PFI事業
本部事務機構	（吹田）未来戦略機構棟・大学本部改修	重点
⑤学生支援や地域貢献など大学等の戦略を踏まえ必要な機能の充実		
附属図書館	（豊中）総合図書館書庫棟・本館等改修	重点
総合学術博物館	（豊中）総合学術博物館	
⑥附属病院機能の充実		
医学部附属病院	（医病）オンコロジーセンター棟	重点、長期借入金対象
医学部附属病院	（医病）基幹・環境整備（自家発電設備）	重点、長期借入金対象
⑦安全、安心の確保等		
本部事務機構	（吹田他）ライフライン再生（屋外ガス設備等改修）	重点
本部事務機構	（吹田他）ライフライン再生（屋外給排水設備等改修）	重点
本部事務機構	（吹田他）ライフライン再生（配電設備等改修）	重点

**文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」
（リサーチ・アドミネレーションシステムの整備）事業の採択**

文部科学省の「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業に対する本学の提案が採択されました。本事業は「世界的研究拠点整備」、「専門分野強化」、「地域貢献・産学官連携強化」の3つの類型で募集され、本学は「世界的研究拠点整備」事業タイプへ応募し、全国の採択4件のうちの1件として採択されました。

本学はこれまで、大型教育研究プロジェクト支援室を設置し、教職（教員と事務職員）協働による研究支援を行うなど、リサーチ・アドミネレーション活動の推進に力を注いできましたが、本事業への採択により、更なる活動の拡大、制度の強化・定着を図っていくものであります。

事業期間は今年度から平成26年度までで、8名のリサーチ・アドミニストレーター（以下、URA（※））を雇用する計画です。現在すでに入選に入っており、陣容が明らかになり次第、ご紹介させていただきます。

本事業を通して、URA活動の周知、人材の発掘・育成、

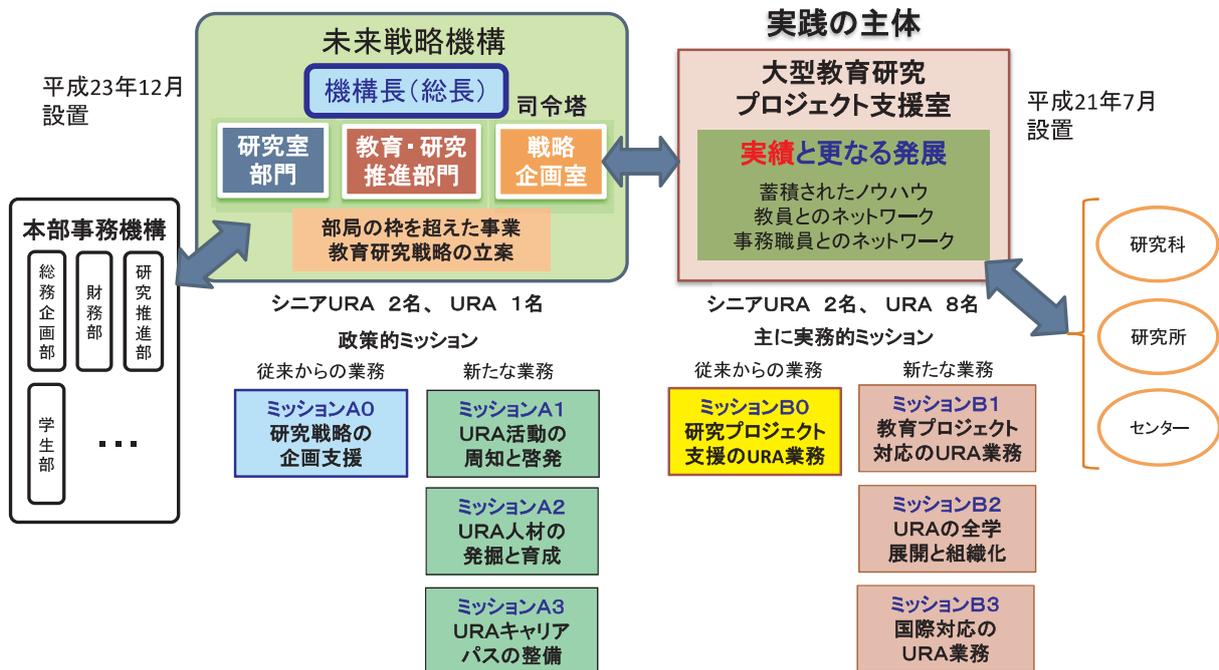
及びキャリアパスの整備等を行い、また、従来からの研究プロジェクト支援にとどまらず、教育プロジェクト及び研究のグローバル化への対応も視野に入れて支援業務を行っていくこととしております。

本事業により、大阪大学におけるURA制度の強化・定着を加速するとともに、他機関のモデルとなり、我が国のURA人材の育成にも貢献することを目指します。構成員の皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

（※）「URA」（University Research Administrator）

本事業におけるURAは、大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材を指します。

大阪大学におけるURAシステム整備事業の組織体制



海外での同窓会活動の最新動向

今回は、海外拠点を中心となって活動している各地の同窓会活動について各センター長から届いたご報告を基に簡単に紹介いたします。

サンフランシスコ教育研究センターのあるアメリカでは、北米同窓会に、現在約 500 名が会員登録（うち約 50 名が帰国留学生・社会人）しており、同センターが事務局となっております。NY 地区、ワシントン DC 地区、シカゴ地区、LA 地区、SF 地区があり、全体で 5 地区体制です。各地区では、担当理事・幹事を中心に、各地区同窓会・交流会・講演会等を企画・実施しています。全体としては年次総会・理事会・講演会・交流会等を実施するなど、カナダを含む北米全体を舞台に活発に活動しています。（関連記事：21 ページ）

グローニンゲン教育研究センターがある欧州では、2011 年 6 月にベルリンにおいて、第 1 回欧州同窓会が開催され、欧州同窓会が発足し、同センターが事務局となっております。現在、16 カ国約 230 名が会員登録しています。第 2 回総会は時期未定ながらロンドンで開催予定となっております。さらなる活動の活発化が期待されます。（関連記事：44 ページ）

バンコク教育研究センターのあるタイでは、タイ大阪大

学同窓会と咲耶会バンコク支部の二つの同窓会が活動しています。タイ大阪大学同窓会は、タイ人卒業生が中心となっており、会長も事務局長もタイ人が務めています。タイ人の会員は 278 名、日本人会員は約 40 名です。一方、咲耶会バンコク支部は日本人が主体で会員は約 60 名です。卒業生は、同窓会を通して人脈形成や情報の交換などを期待する一方、日本留学フェア等のボランティア活動を通して本学への貢献も行っています。

上海教育研究センターのある中国上海地区では、大阪大学上海同窓会と咲耶会上海支部の二つの同窓会が活動しています。前者は、約 80 名の会員がおり、その半数以上は中国人卒業生です。後者の咲耶会上海支部は、日本人卒業生が多いことが特徴で、会員数は例年 80 名を下らず、いずれの同窓会も季節ごとに会食を兼ねた同窓会、帰任者や新任者、本学からの留学生の歓送迎会などを開いています。

上記のように、海外における同窓会は活発な活動を行っており、本学が設置する 4 海外拠点は各地域の同窓生・同窓会を今後も積極的にサポートするとともに、現地におけるより広範囲なネットワークの構築に努めていきたいと考えております。

GPA制度の導入及びダブル・ディグリーに関するガイドラインの検討

本学の今後の教育制度に関する事項として、GPA 制度の導入とダブル・ディグリーに関するガイドラインについての検討を行っています。

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度については、その導入により、学生が自身の履修状況をより客観的に把握できるとともに、教員がきめ細かな履修指導を行うことが可能となり、本学で実施する授業に係る単位の実質化や教育の高度な質保証の実現に寄与することが考えられます。

また、今後の教育の国際化への対応という観点からも、必要性があるものと考えております。

ダブル・ディグリーに関するガイドラインについては、高等教育のグローバル化により、学生の流動性が高まるとともに、外国の大学と日本の大学で学び、双方の大学から同時に学位を取得するダブル・ディグリー制度が広がってきた現状を踏まえ、本学が外国の大学と連携してより質の高い高等教育を提供できるよう、その実施に当たっての指標を定めるものです。

いずれの事項についても、今後、各学部・研究科等の意見を参考としながら、より具体的な検討を進めて行く予定です。

大学公式ウェブリニューアル

大阪大学の公式ウェブページを大幅にリニューアルしました。今回のリニューアルの目的としては、大阪大学未来戦略の策定を強く意識付け、今後ウェブを積極的に広報に利用することを鮮明にアピールすることが挙げられます。そのために次の2点を中心に据えてリニューアルを行いました。

1. 全てのページのデザインイメージの刷新

知的で最先端のイメージを与えるデザインを採用するとともに、トップページを2カラムから3カラムへと拡張することで、情報の掲載量を増やし、さらに可読性の改善を試みました。これにより、本学の最新研究リリースをトップページにも掲載し、本学のアクティビティの高さをアピールします。また、トップページ上部のイメージ内に検索窓を配置し、キーワード検索へ訪問者を誘導します。

2. 検索機能の拡充によるユーザビリティの確保と訴求力の向上

本学のウェブページは大量のページによって構成されており、階層をたどるより、検索窓にキーワードを入力して目的の情報にたどり着く訪問者が非常に多くなっています。そこで、検索窓をGoogleの検索ページのようにトップページの中心に据えることでコンテンツへの到達性・ユーザビリティを改善します。また、osaka-u.ac.jpドメインの網羅的な検索だけではなく、特定のキーワードを入力した際に特別なページを表示したり、研究者総覧の検索結果を同時に表示することで、本学の得意分野や受験生向け情報、研究者情報を積極的にアピール可能なものとなりました。

今後ともより良いウェブページの実現を目指し、皆様からのご意見も歓迎しますので、広報課へお知らせいただければ幸いです。



トップページデザイン